

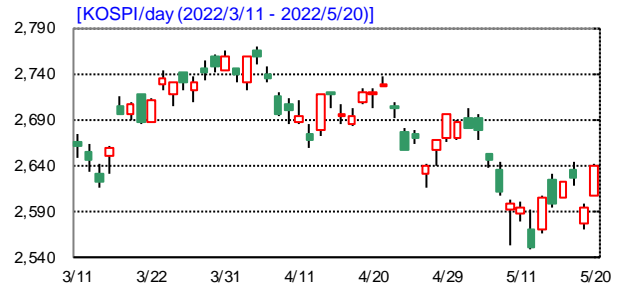


## 【韓国】 総合指数は 1.3%高と 4 週ぶりに反発、今週は韓国中銀基準金利に注目

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.3%高と 4 週ぶりに反発。節目の 2600 ポイントを挟んだ一進一退の展開だったが、20 日に急騰した。週明け 16 日は米株価指数先物の下落を嫌気して小幅に反落したが、17 日は反発。中国・上海市の都市封鎖が解除されるとの期待で中国の景気への懸念が和らいだ。18 日も前日の米株高を受けて続伸。サムスン電子などの主力株に買いが入った。一方、19 日は米株安の流れを引き継ぎ 1%超の下げとなり、再び 2600 ポイントを割り込んだ。20 日は中国の住宅ローン向け指標金利の引き下げに加え、米株価指数先物が堅調に推移したことから地合いが改善。2600 ポイントを回復し、終値ベースで 6 日以来 2 週間ぶり高値を付けた。今週も米株市場をにらんだ展開か。国内では 26 日に発表する韓国中銀基準金利に注目。

▼指数チャート

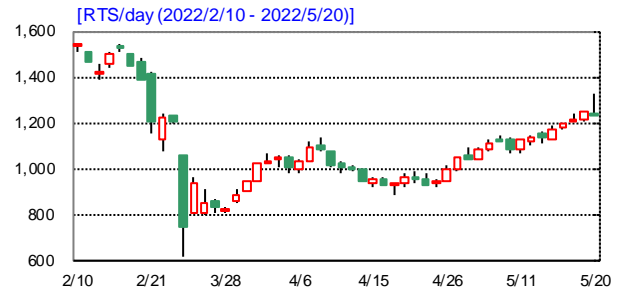


## 【ロシア】 RTS 指数は 9.5%高と大幅に 4 週続伸、今週もルーブル高が追い風か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 9.5%高と大幅に 4 週続伸。原油高を受けたエネルギー株の上昇やルーブル高が追い風となった。週明け 16 日は前週末比で 3.7%高。EU が新たな対ロシア経済制裁を科すとの見方が強まったが、原油高を受けたエネルギー株の上昇や対ドルでのルーブル高が指数を押し上げた。その後もこうした流れを追い風に 19 日まで 4 日続伸。20 日は一時、2 月 21 日以来の高値となる 1324.10 ドルまで上昇し、1239.83 ドルで引けた。ルーブルは対ドルで 7.0%高となり、2018 年 3 月以来の高値を付けている。個別銘柄ではエネルギーのガスプロムが 11.7%高、タトネフチが 10.9%高と大きく上昇した一方、産金のポリメタル・インターナショナルが 6.9%下落した。今週は原油高とルーブル高が引き続き追い風か。

▼指数チャート

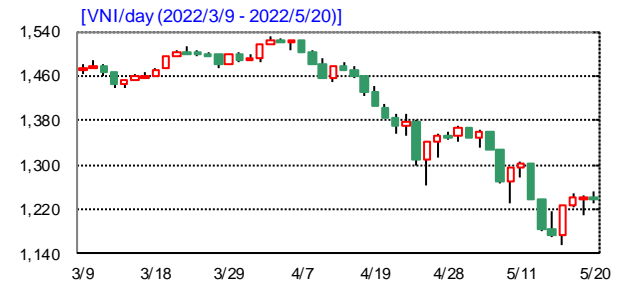


## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 4.9%高と大幅に 7 週ぶり反発、今週も堅調か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 4.9%高と 7 週ぶりに大幅反発。先安観の後退で主力銘柄が軒並み大幅反発した。前週まで 6 週続落し、1 年 1 カ月ぶりの安値を付けた指数は週明け 16 日に前週末比 0.9%安となったものの、17 日は 4.8%高と急反発。軟調に始まったが、株価が底堅さをみせると急速に売り注文が減少し、急伸した。指数は 19 日まで 4 日続伸。20 日は 0.1%安と小幅に反落したものの、大幅高で週を終えた。個別では金融の軍隊商業銀行が 12.0%、公益のペトロベトナム電力総会社が 11.8%、ゴム製品のベトナム・ラバーが 11.3%、食品加工のマサン・グループが 11.2%、証券の SSI 証券が 10.3%上昇した一方、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が 3.8%安、不動産のビンホームズが 1.8%安となった。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート



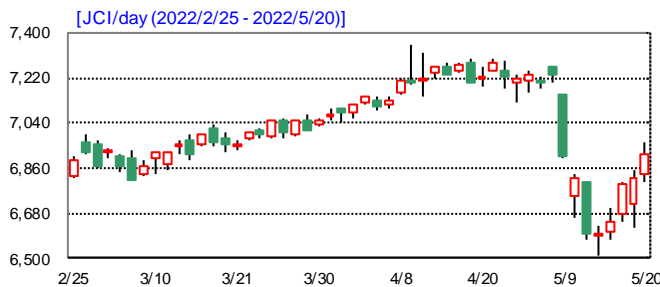


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】**ジャカルタ総合指数は 4.9%高、今週は 24 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 4.9%高と反発。週末まで 4 日続伸と好調だった。連休明けの 17 日に 6 営業日ぶりに反発すると、18 日は世界的な株高に連動して前日比 2.2%高と続伸。20 日は 4 月 28 日から一時的に禁止されていたパーム油輸出を 23 日に解禁する方針が発表されたほか、中国人民銀行（中央銀行）が住宅ローン金利の基準となる最優遇貸出金利（LPR）5 年物を 4 カ月ぶりに引き下げたことが買い材料となり、指数は終値で前日比 1.4%高と 6900 ポイント台を回復して引けた。今週は 24 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。26 日はキリスト昇天祭のため休場となる。

### ▼指数チャート

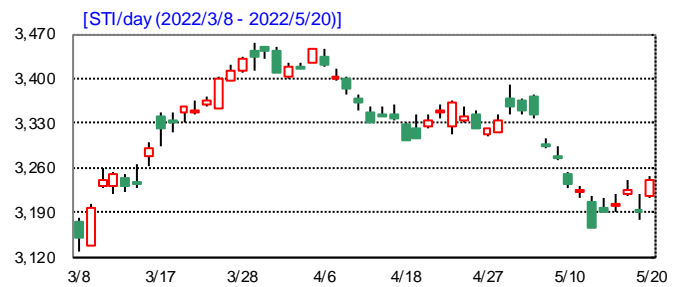


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】**スレーツタイムズ指数は 1.5%高、今週は 3200 ポイント台維持に期待

スレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.5%高と 4 週ぶりに反発。週末の上昇が奏功した。連休明けの 17 日は、4 月の非石油地場輸出が市場予想を下回ったものの、指数は終値で 3 営業日ぶりに 3200 ポイント台を回復。18 日まで 3 日続伸した後、19 日は前日の NY ダウが急落した影響で前日比 1.1%安と反落したが、20 日は中国の貸出金利の引き下げ幅が予想を上回ったことが好感され、前日比 1.6%高と反発して引けた。今週は 23 日の 4 月の CPI に続き、26 日には 1-3 月期の GDP 確定値と 4 月の鉱工業生産が発表される予定。外部要因では 25 日に公表される FOMC 議事要旨の内容が相場を左右しそうだ。

### ▼指数チャート

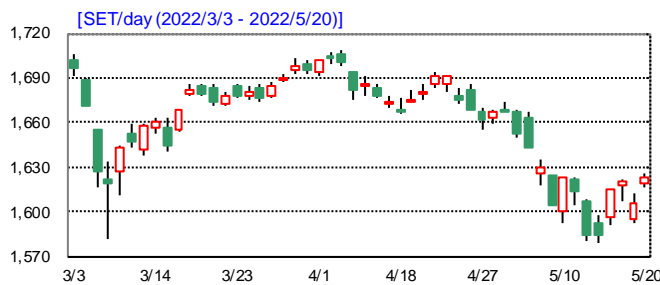


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】**SET 指数は 2.4%高、1-3 月期の GDP 成長率を好感

SET 指数は 4 日間の取引で 2.4%高と 4 週ぶりに反発。連休明けの反発が指数を押し上げた。17 日は 1-3 月期の GDP が前年同期比 2.2%増と小幅ながら市場予想を上回ったことが好感されて、指数は前営業日比 1.9%高と 4 日ぶりに反発。18 日に続伸した後、19 日は米国の金融引き締め加速に対する警戒感などから売られたが、20 日は中国の貸出金利引き下げに加え、タイ政府が新型コロナの感染対策として導入していた規制を 6 月 1 日から大幅に緩和する方針を示した効果で前日比 1.1%高と反発して引けた。今週は 23 日の 4 月の貿易統計（通関ベース）に続き、26 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。

### ▼指数チャート

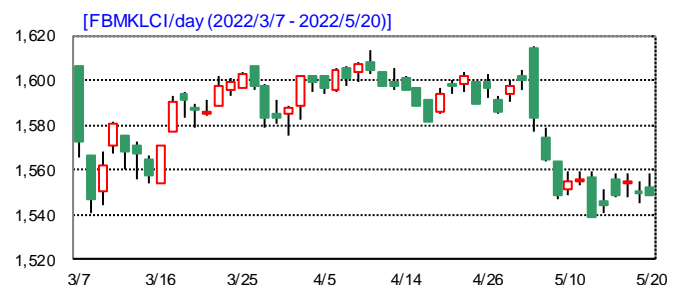


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】**クアラルンプール総合指数は 0.3%高、今週は 25 日に 4 月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.3%高と 4 週ぶりに反発。狭いレンジでの取引が続いた。連休明けの 17 日は、上海で新型コロナの感染状況が改善し、経済再開への期待が高まった効果で指数は続伸。18 日は米国の 4 月の小売売上高が堅調だったことが買い材料視された。ただ、19 日は 4 月の貿易収支が市場予想から上振れたものの、米小売り大手の決算が振るわず、景気減速への懸念が広がった影響で 4 営業日ぶりに反落すると、20 日は前日からほぼ横ばいで取引を終えている。今週は 25 日に 4 月の CPI が発表される予定。上昇率が市場予想を下回りインフレ懸念が和らげば、株式相場の追い風か。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。